

北部ブロック  
地域の未来についての懇談会  
(通算第132回)

|      |                 |
|------|-----------------|
| 開催日  | 平成30年7月9日(月)    |
| 開催時間 | 午後6時30分～午後8時30分 |
| 会場   | 朱雀地域ふれあい会館      |
| 参加者  | 30名             |



| 意見・質問等  | 市側の発言  |
|---|--|
| <p>1. 新しいクリーンセンターの用地がまだ決まっていない。公害調停から言えば移転すべきであるが、あらゆる手法を考えて進めてほしいことについて</p>                            | <p>1. 公害調停の趣旨はしっかり受けとめているが、現実問題、現地建て替えの可能性を全く除外するのも難しいところもあり、昨年の市長選挙の際、現地建て替えも含めてあらゆる方策をと提案した。左京以外の場所でほかにできるところがないか、また公害調停の当時は市町村で連携して取り組む形の議論は余りなかったかと思うが、今は天理市を中心として県も財源を応援する動きがあり、その活用の可能性もあわせて探っていくなど、いろいろと事前調整を行っている。総合的なまちづくりという視点で、こういう形ならいいと言っていたような提案をしていきたい。</p> |
| <p>2. 環境清美工場の煙突は建築物ではなく工作物であるが、もし地震でそれが倒壊すれば、環境清美工場でごみの焼却ができなくなってしまうことについて</p>                          | <p>2. 煙突の補強なり安全性を高めることについては、煙突が倒壊すると環境清美工場全体が止まってしまうので、1日も早く新しい施設をとすることは大前提であるが、緊急対応も含めて前向きに考えていきたい。</p>   |
| <p>3. クリーンセンターの場所について、現地以外でどこが適当かということ、10年ほどの年月をかけて1カ所に絞ったので、そこで実現できるよう市としてもっといろいろな努力をする必要があることについて</p> | <p>3. できる限り現地以外の方策を探してほしいという皆さんの思いは、最大限受けとめる責務があるが、ある程度限られた時間の中で現実的な可能性を探っていく。前回候補に挙げた場所は、かなり市内の中心部から遠くてランニングコストも相当かかることもあり、断念したということになるが、違った視点で、例えば発電できるとかのプラス材料も踏まえて、具体的な案を探していきたい。</p>  |
| <p>4. 右京地区の避難所になっている右京小学校は、教室は耐震化が全部できていないから使えないと言われたが、体育館に収</p>  | <p>4. 市指定の一次避難所で、すべての市民を受け入れることはできない。すべての住民が一斉に同じ場所に避難することは、想定していない。川の近くの方等、一部の方が避難されることを大前提とした計画をし</p>  |

容できる220名以外の方はどうしたらいいのか、耐震化できていない建物はどうするのか、神功小学校に統合され学校がなくなった場合はどこへ避難すればいいのかについて

5. 防災訓練をしても、学校の子どもや保護者は余り来られないのが現実であるが、学校で行われる年2回の防災訓練のうち、1回は地域との協働で行えば、保護者も来てもらえるし、子どもも地域で何ができるかを考えて、責任感を持つ子どもに育ていくことについて

6. 教育は、ある意味では非常に高度で、判断力と緻密な調査等が必要な分野であり、コミュニティ・スクールをされていく意味がわからないことについて

7. 地域包括支援センターは、いわゆる役所の時間しか開いていないので、仕事をしている人は行くことができないことから、月に一度でも土曜日等に相談できる日をつくってほしいことについて

ている。準避難所という位置付けで、官民連携で開設できないか検討している。また開放してもらえる民間施設も、巻き込んでいきたい。右京小学校については、子どもたちが利用する空間は最低限の耐震性を確保していきたい。今までは今後の新しい展開を見据えて足踏みしていた部分があるが、大阪の地震等もあったので、今までの方針等ももう一度見直して、どうすれば目の安全確保ができるか、そしてその先のいろいろな案についても保護者の方等の意見もていねいにくみ取って、対話型で次のステップも考えていきたい。

5. 前向きな提案、ぜひ考えてみたい。大事なポイントだと思うので、また仕組みづくりをしていきたい。夏祭りの企画等に中学生が参画し、一緒に会場づくりをしたりするまちもあり、そういう形で参加できる体制は大事だと思う。

6. 教育には、カリキュラム化された部分と同時に、地域の担い手になる将来の市民を育てていくという、もう1つの役割がある。多面的な教育のためには、いろいろな社会経験を持った方に子どもと接していただくことが必要であり、市民を育てるという長い目線での1つの仕掛けとして、コミュニティ・スクールをうまく生かしていけたらと思う。

7. 地域包括支援センターが平日の午前9時から午後5時までしか開いていないのはおかしいというのは、当事者にならないとわからない悩みである。委託業務で、すぐ明日からということは難しいが、月1回等でもできないか、検討させていただく。